

日本鉄鋼協会記事

研究委員会

第4回委員会 開催日：9月25日。出席者：不破委員長，ほか10名。

1. 昭和53年度石原，浅田研究助成金交付者を次のように決定した。

(1) 材料関係 水渡英昭(東北大)，岩瀬正則(京大) 小沢泰久(名大)

(2) 製錬関係 千葉 昂(熊本大)，松尾 孝(東工大)

2. 基共研新規テーマについて

新規テーマを下記の2件に決定した。

(1) 鉄鋼材料の摩耗

(2) 非金属介在物の形態制御および鋼材の性質との関係

両テーマの委員長候補を専門委員から提案していただき，次回11月17日に決定することにした。

3. 国際会議について

(1) 日本-オーストラリア冶金シンポジウム

オーストラリアからの呼びかけに対し，正式に受諾することを決定した旨事務局から報告された。

編集委員会

第8回和文会誌分科会 開催日：10月13日。出席者：長嶋主査，ほか17名。

1. 13件の論文審査報告がなされ，掲載決定7件，修正依頼1件，その他5件であった。

2. 「鉄と鋼」第64年第2号(2月号)に論文14件特別講演1件，寄書1件，掲載決定した。

第8回欧文会誌分科会 開催日：10月11日。出席者：橋口主査，ほか8名。

1. 14件の論文につき審査報告がなされ，掲載可5件，昭会后掲載可6件，修正依頼2件，掲載不相当1件であった。

2. 「鉄と鋼」で掲載決定になった論文について，積極的に投稿勧誘をおこなうこととなった。

共同研究会

鋼管部会

第23回溶接鋼管分科会 開催日：9月20日～21日。出席者：大日方主査，ほか58名。

1. 電弧溶接管関係

(1) 塗覆装について(スパイラル)

(2) 品質および工程管理について(ストレートシーム)

上記2件の共通議題に関するアンケート調査結果のまとめ発表および質疑応答が行なわれた。

2. 電縫・鍛接管関係

(1) 鍛接管の原単位および品質について5件の自由議題発表が行なわれた。

(2) ESW溶接条件について

共通議題として，アンケート調査および共同実験結果のまとめ発表が行なわれた。

自由議題として計4件の発表が行なわれた。

標準化委員会

ISO鉄鋼部会

第13回SC7分科会 開催日：10月2日。出席者：水野主査代行，ほか11名。

1. DISの審議

ISO/DIS 642(焼入性試験) DIS 4968(サルファープリント試験) DIS 4969(マクロ組織試験) DIS 4970(薄硬化層深さ試験) はいずれもJISとは本質的に差がなく，日本意見もかなり採用されていることから，原案に賛成することにした。

2. その他

鋼のフェライト及びオーステナイト結晶粒度の顕微鏡測定(N 235)第3次案は賛成，標準図を使用して工具鋼及び軸受鋼の炭化物の分布を等級化する顕微鏡試験(N 236)は規格化に反対することにした。

第1回SC17分科会 開催日：9月25日。出席者：清水主査，ほか10名。

1. TC17/SC17国際会議対策

(1) 日本代表として神鋼を派遣する。

(2) 分科会構成は，線材メーカ，線メーカとし，議題に応じ使用者を参画させる。

(3) ファスナー用鋼線，フェンス用鋼線について線材製品協会側で叩き台を作成する。

第2回SC17分科会 開催日：10月5日。出席者：清水主査，ほか10名。

1. ねじ用炭素鋼及び低合金鋼線

ISO/DIS 4954(冷間圧延及び冷間引抜用鋼)との関連が不明確で原案制定の必要性について指摘すると共にLD転炉を認めるよう提案する。また脱炭深さも用途上必要以上に厳しいのでJIS値を提案する。

2. フェンス用亜鉛めつき線

引張強さ，亜鉛めつき付着量が日本の実状とかけ離れているため，JISに準じた数値を提案する。

第16回TC67分科会 開催日：9月19日。出席者：丸岡主査，ほか7名。

1. ねじ検査用ゲージ

第3次案及び各国コメントについて検討，特にGage Certificationの問題は，日本としては，ISOが将来Cartification Systemを作るまではAPIが世界的に使われている現状を考え19Eの提案に賛成する。

2. SC9 Wellhead equipment and pipe line valve

上記のSC9が新設されたが，日本の参加資格を当分科会では決められないため工業技術院の見解を伺い，関連団体と協議の上決めることにした。

3. TC67会議への出席

住金、鋼管から日本代表を派遣願うことにした。

第 57 回普通鋼分科会 開催日：9月12日。出席者：山南主査，ほか9名：

1. 中・常温圧力容器用高強度鋼板

WES 3005 の JIS 化について工業技術院から諮問を受けたもので，JIS 化を承認し，次回問題点を検討する。

2. SPV, SLA 板厚拡大

使用温度は材料規格では規定せず，設計規格で決めるという基本方針で，次回どういう基準で進めるかを検討する。

第 31 回鋼質判定試験方法分科会 開催日：10月2日
出席者：水野主査代行，ほか。

1. 鉄鋼の窒化硬化層深さ測定方法

鋼の窒化硬化層表面硬さ測定方法

工業技術院の要請により両規格を JIS することの可否について検討し，JIS に賛成することで答申することにした。なお，JIS 原案は熱処理技術協会とし，当分科会は側面から協力する，

なお両規格審議過程で，G0557 の見直し検討を行う。

2. 鋼の顕微鏡組織試験方法

JIS のニーズはなかったが協会規格としては必要という声も多いので，規定項目について検討を超める。

第 2 回微小硬さ試験方法 JIS 原案作成分科会
開催日：9月26日。出席者：川田主査，ほか21名。

1. 微小硬さ試験方法2次案の検討

適用範囲，用語の意味，試料，試験機，試験法，くぼみの測定及び硬さの算出と表示の各項について逐条審議を行った。

特に試験荷重の最低を 25g まで下げられるか，保持時間を 10~15 秒と短くできるかどうかの論議が目立った。

材 料 研 究 委 員 会

第 31 回委員会 開催日：9月21日。出席者：金沢委員長，ほか10名。

鋼の焼入性に及ぼす各種因子の検討を行っているが，今年度中に一応の報告を行うべくまとめを開始した。Grossmann 式の批判，新規式の提案が中心となる。尚，焼入性評価のパラメータとして 50% マルテンサイト硬さと，ジョミニー曲線の変曲点を比較したがクロム系を除き大差なかった。

圧延に関する国際会議

第 1 回準備委員会

開催日：7月10日

出席者：加藤委員長，ほか12名

第 1 回組織委員会

開催日：8月23日

出席者：荒木委員長，伊木副委員長，ほか18名。

第 2 回実行委員会

開催日：8月23日

出席者：加藤委員長，ほか13名。

第 2 回組織委員会，第 3 回実行委員会合同委員会

開催日：9月22日

出席者：荒木委員長，伊木副委員長，(組織委員会) 加藤委員長(実行委員会)，ほか21名。

従来とり上げられることの少なかった鉄鋼圧延技術に関しても国際会議を開きたい，との意向が出，協会として正式にとり上げることとなった。

1. 日程 1980年9月29日~10月4日。

(会議4日，工場見学2日)

2. 場所 東京

3. テーマ 今回は鋼板圧延に絞る

(1) 鋼板圧延における寸法形状制御

(2) 鋼板圧延における潤滑

(3) ダイレクトローリング・ホットチャージ

(4) 鋼板の温度制御圧延

4. 組織 組織委員会と実行委員会の2本立とする。組織委員会委員長は日本鉄鋼協会会長，副委員長は伊木共研幹事長，実行委員会委員長は阪大加藤教授(研究委員会担当理事)にお願いする。

5. Call fos Papers

11月に世界各国の鉄鋼関連団体に Call fos Papers を提出する予定である。